

(特別支援学校版「学力向上実行プラン」様式)

令和7年度 鴨島支援学校「学力向上実行プラン」

徳島県立鴨島支援学校 校長 喜多久美子

1 学力向上検討委員会構成

学 力 向 上 検 討 委 員		
	職名・校務等担当名	氏名
管理職	校長 教頭	喜多久美子 中山 育美
学力向上推進員	教諭(教務課長)	近藤美和子
委員	主幹教諭(小・中・高学部長) 教諭(小・中教務主任) 教諭(高教務主任)	藤原 美咲 瀬尾美由希 松永美保子

2 学力・学習状況における現状分析、目標等

【3つの視点】

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得
- (2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成
- (3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

(小・中・高 学 部) 児 童 生 徒 の 状 況			
よ	個々の児童生徒の実態に応じた教育課程の編成により、個別最適な教育活動を実施することができている。その中で校内や校外での活動を通して様々なことに挑戦しようとする力がついてきている。	課題 児童生徒数の減少や障がいの多様化により、集団活動や同世代同士での関わりを深めていくことが難しい。校外における活動や様々な経験を通して、自分を表現しコミュニケーション力を高め、社会性を育むことが課題である。	
	具体的目標(目指す子どもの姿)	成果指標	達成状況
	日常生活に必要な国語についての理解を深め、自分の気持ちや考えを表現する力を高めるとともに、様々な活動を通してそれらを活用する能力や態度を育むことができる。	個々に応じて設定した児童生徒の目標を「達成」「ほぼ達成」となる割合が8割以上となる。	言語力やコミュニケーション力の習得における目標の成果として「達成」「ほぼ達成」の割合が8割以上とすることができた。
			評価 B
	具体的方策(教員の取組)	取組指標	取組状況
	学習活動の中で、個々に応じた表現方法や適切な支援方法を模索、指導し、様々な場において適切に活用できるよう支援し、その取組について個別の指導計画に反映させる。	・学部全体で取り組む学習活動を年間3回以上、校外の人と言葉等を介してやりとりする活動を年間2回以上実施する。 ・全ての児童生徒の個別の指導計画に、社会性、コミュニケーション力、表現力に関する目標を設定し指導する。	「国語」「自立活動」を中心に目標設定し、授業展開ができた。お接待活動等において自分の言葉や代替手段を使ってコミュニケーションを図る力がついてきた。
	* 中間期の見直し		
達成状況を踏まえた改善事項			
個別の指導計画において「国語」「自立活動」の目標を「達成」「ほぼ達成」が8割以上とすることができた。各教科における目標は達成できたが、他教科や生活場面など、より多様な場面で自発的に活用できるよう、引き続き取り組み、指導の充実を図っていく。よって評価は「B」とする。			

